

【消化器外科】

内痔核の注射と切除の併用療法について

国吉病院

医師 小田 浩睦 さん



出血や肛門からの脱出を伴う内痔核(いぼ痔)の治療法といえば「切る」「術後が痛い」と考える方が多いでしょう。硫酸アルミニウムカリウム水和物とタンニン酸を主成分とする薬剤を痔核に注射する「ALTA療法」は、痔を硬くして粘膜に固着・固定させる治療です。痛みが少なく、手術翌日から排便も普通に行うことができ、入院も短期間で済むことから、広く

行われています。当初、「切らずに済む手術」として単独での使用が推奨され、外痔核を主体とするものや発症から長期間たつて繊維化して硬くなった内痔核や皮垂や肛門ポリープを伴うものには対応できず適応外とされています。

現在、切除手術とALTA療法の併用が注目され、大きな外痔核の結紮切除手術後に他の部位のALTA療法というコンビネー

ション治療や、ALTA療法を行い数カ月の経過観察後に外痔核の縮小する程度を見極めてから切除を行う二段階治療などがあります。

こういった治療方法が最適であるかは患者さまの状態によって異なりますので、ご相談ください。

医療法人三和会 国吉病院

高知市上町1-3-4

☎088-875-0231

【診療時間】

午前9:00～正午

午後2:00～午後5:00

※土曜日は午前診療のみ

【休診日】土曜日午後・日曜日・祝日

※急患は時間外でも診療いたします

【診療科目】

消化器内科・循環器内科・消化器外科・緩和ケア内科・整形外科・脳神経外科 他